

2023年6月10日の事業運営委員会会議の調査結果と結論の概要

一般的なステータスの最新情報

1. 2022年中に、メーチャンタイ村（MCT）は合計 500,000 kg のコーヒーチェリー（果実）を生産した。これは、乾燥後の重量で 80,000 kg に相当します。2022年の生産量は2021年の生産量（80,000 kg）とほぼ同じですが、2017年の最高生産レベル（120,000 kg）よりはるかに少なかった。
2. 生豆の価格は、2021年の180 バーツ/1kg から2022年には230 バーツ/1kg、さらに2023年には300 バーツ/1kg まで上昇した。これは基本的にはコーヒーの国際市場価格の上昇に準じたものだが、タイ国内市場におけるメーチャンタイコーヒーの品質に対する知名度の高まりやブランディングキャンペーンの結果、メーチャンタイコーヒーの評価が高まった事にも由来するものと思われる。
3. コーヒー農家の平均年収は、2019年の20万バーツ（月約6万6,700円）から2023年には25万バーツ（月約8万3,300円）へと25%増加した。最近では、ほとんどの農家が、家の改築を始めていて、農家の収入と生活レベルが目に見えて改善されたと思われる。
4. MCT村は、GIAPSA から寄付されたコーヒー豆脱穀機と焙煎機の使用料金として農家に請求されるサービス料を蓄えて、コミュニティ基金を生み出すことに成功した。2021年に蓄えられたコミュニティ基金の額は約180,000 バーツ、2022年には約130,000 バーツであった。これらのコミュニティ基金は、村民の相互利益のため、コミュニティ開発や社会福祉の目的に使用された。例えば、道路の修理、村の集会所の改築、新型コロナ対策、村の水道の修理、山火事防止ベルトの設置、など。

具体的な議題

5. 会議は、2023年8月26～27日に最大25名の参加者が参加するスタディーツアーの暫定的なスケジュール/プログラムに同意しました。
6. GIAPSA は、スタディーツアー参加者に質の高いパフォーマンスを確保するために、アカ族のカルチャーショーの料金を1,000 バーツから3,000 バーツに増額することを提案した。GIAPSA はまた、MCT コミュニティにサービス料を提供するために3,000 バーツの予算を計上することも提案した。これら2つの提案は村人たちに高く評価され、会議

で合意された。

7. 4,000 本の世界最高レベルの優良品種のゲシャ種コーヒー苗木（各農家あたり 100 本 x 40 戸）の寄贈について、これらの苗木はスタディーツアー参加者によって 2023 年 8 月 27 日に植えられることが再確認された。また、苗木は 8 月中旬までに準備が整う予定であることも指摘された。農家はスタディーツアーに先立ち、8 月後半に苗木を植えることが提案された。ただし、一部の苗木は植え付けずにスタディーツアー参加者のために確保しておくとする（参加者 1 人あたり約 10 本の苗木）。参加者を 4~5 グループに分けて植樹作業を行うことも提案された。

8. 2023 年のコーヒーショップ（および日本への輸出）向けの 2023 年生豆特別価格を 285 バーツ/kg に設定することが合意されました。

9. 村民による脱穀機および焙煎機の使用が減少する見込みのため、2023 年のコミュニティ基金は減少する可能性があることが指摘された。

10. 2023 年には村のコミュニティー基金が減少する可能性があるため、GIAPSA が地域水道システムの修復を支援することが原則的に合意された。リーダーは最終決定のために GIAPSA に費用の見積りを提供するよう求められた。

11. リーダーは、政府が MCT 村への公共送電線の提供を承認したと報告した。村には 2023 年末か 2024 年に公共電力が供給されると予想される。

12. 2024 年のスタディーツアーについては、第 1 回目を 2024 年 1 月中旬に、第 2 回目を 2024 年 8 月に開催することが合意されました。

13. 2023 年 7 月に東京の原宿で、同じく 7 月に九州の熊本市でメーチャンタイコーヒー豆を専門に扱ったコーヒー店が 2 店開店する、との報告が GIAPSA からあった。